

「やる、あげる、与える」の意味上の使い分けについて

中村有里(仁川大)

1. はじめに

日本語学習者から受ける質問の一つに、授受動詞「やる」「あげる」と「与える」との使い分けがある。そこで、学習者にこれ3語の使い分けを分かりやすく指導する指針を得るべく、国語辞典、類語辞典、先行研究を調べてみた。

国語辞典や類語辞典には、「あげる」は「やる、与える」をその相手への敬意を込めて言う、もしくは丁寧に言う表現、すなわち「やる、与える」と比べて敬意や丁寧さの度合いが高い表現であるとの旨の説明や、「与える」は硬い表現で用いられるとの説明はあるが、意味上の違いに関する十分な説明は見られなかった。そこで、これら3語に関する意味論的研究を探してみたところ、3語すべてを扱ったものは管見の限りでは見当たらず、김옥영(2009)で「やる」と「与える」の意味とその異同が扱われていた。김옥영(2009)は、まず「やる」と「与える」それぞれの意味を列挙し、その後、これら2語間で共通する意味と異なる意味を列挙している。日本語教育への応用を考えた場合、各語の意味を全般的に扱うことは必要であるが、同論文は一つ一つの意味同士の相互関係を明らかにしないまま個々の意味を羅列しており、この方法では、学習者が各語の全体的なイメージを感覚的に捉えることにはつながりにくいという限界がある。また、「やる」と「与える」の共通点と相違点をまとめる際にも9つもの項目を挙げており、教育現場に応用するのは容易でない。

学習者に「やる、あげる、与える」の意味上の使い分けを分かりやすく示すためには、①これら3語を使い分ける必要性が生じる領域、すなわち、授受動詞としての「やる」「あげる」と「与える」に関し、②各語における個別的意味の相互関係を中心的意味から周辺の意味へと順に示しつつ、③語と語の置き換え可否および使い分けの基準を検討する必要がある。これが本研究の目的である。

2. 研究方法

第一に、12種の辞典類に掲載されている、授受動詞としての「やる」「あげる」の意味と例文、および「与える」の意味と例文を上述の研究目的に合わせて検討し、各語の意味をまとめ直した。第二に、コーパス検索アプリケーション「中納言」の短単位検索を使い、「品詞：名詞(キーに指定) + 書字形出現形：を + 語彙素：{遣る／上げる／与える}」という条件設定で、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(以下「BCCWJ」)内にある用例を収集し、それをもとに各語の意味を再検討した。第三に、各語の置き換え可否は、日本語母語話者である筆者の内省に加え、当該表現の日本語母語話者による用例がBCCWJ内もしくはインターネット上¹にあるかどうかを確認し、異なる日本語母語話者による用例が複数あった場合は「置き換え可」とみなした。

3. 「やる」の意味

- (1) a. 子ども(中学生)にお金のありがたみを教える方法を教えてください。
小遣いをやら【あげ／与え】なきゃいいのでは。決まったものをこなすこと(「買い物や洗濯などからでも」)で収入を得るといふ風に持っていけば良い。(Yahoo!知恵袋)
- b. 犬がエサを目で追うために頭が上を向き、少しでもお尻を落とし始めたらクリックして褒美をやり【あげ／与え】、体をなで、声でも褒めてやる。
(古銭正彦他『あきらめないで!必ず直せる愛犬のトラブル』)

¹ インターネット上の用例の検索には、「Yahoo!JAPAN」の条件指定検索を用いた。

(1a) (1b)の「やる」の意味は、＜主体が、受け手のもとに実体のあるモノを移動させ、受け手のものとする＞(以下「やる：意味①」)と定義することができる。

- (2) a. お前がそんな口をきくからには、もういくら黄金を積んだとて、お前の息子におれの娘をやる【?あげる/?与える】ことはお断りしよう！ (佐藤正彰『美食』)
b. 確かに一人養子にやり【?あげ/?与え】ました。生活が苦しくて食べていけない、この先どうなるかも分からない、だったら、この子だけでも生き残って欲しいってね。
(藤原緋沙子『紅椿』)

「やる」には、上の(2a) (2b)のように、与え手が受け手のもとに移動させる対象が＜人＞である用法もある。この場合の「やる」の意味は、＜主体が、受け手のもとに人を移動させ、受け手のものとする＞(以下「やる：意味②」)と定義できる。この場合は「あげる、与える」に置き換えることができない(「使い分けの基準①」)。

- (3) a. オレたちを殺して村が救われると思うなら、もう一度機会をやって【あげて/与えて】もいいぜ。ただし、その時はオレも全力で戦う。 (水野良『ファンタジー王国』)
b. この運命の時間に陸軍や海軍の親玉に権力をやっちゃ【あげちゃ/与えちゃ】いかん。
(ロナルド・ケスラー『汝の父の罪』)

「やる」は、上の(3a) (3b)のように、対象が＜実体のないモノ＞である場合にも用いられる。この場合の「やる」の意味は、＜主体が、受け手に実体のないモノを提供し、受け手のものとする＞(「やる：意味③」)と定義できる。

4. 「あげる」の意味

- (4) a. どうして贈与税って払わないといけないんですか？親から子供にお金をあげる【やる/与える】のに、役所に届けがいますか？ (Yahoo!知恵袋)
b. うちの9匹のハムスターのうちの1匹は、エサをあげて【やって/与えて】も、すぐに小屋に隠して、ほとんど食べていません。
(佐草一優監修『うちの家族 たのしい飼い方と遊び方』)

上の(4a) (4b)の「あげる」の意味は、＜主体が、受け手に実体のあるモノを渡し、受け手のものとする＞(以下「あげる：意味①」)と定義できる。

- (5) a. 何で努力のチャンス上げ【やら/与え】ないんですか。三年努力のチャンスをやって【あげて/与えて】から、もう一回売るということを決めてもいいじゃないですか。
(『国会議事録』)
b. 同じ発明が複数あったら、一番最初に出願した人に権利をあげる【やる/与える】というのが先願主義です。 (<https://lex.juris.hokudai.ac.jp/coe/lecture/transcript/pat.pdf>)

「あげる」は先の「やる」と同じく、上の(5a) (5b)のように、対象が＜実体のないモノ＞である場合にも用いられる。この場合の「あげる」の意味は、＜主体が、受け手に実体のないモノを提供し、受け手のものとする＞(以下「あげる：意味②」)と定義することができる。

5. 「与える」の意味

- (6) a. 転換期の節目にいる子どもには、自分の将来の夢や生き方に影響を及ぼす本を与え【やり/あげ】たい。 (西田清『AD/HD・LDの発達と保育・教育』)
b. 客が猫におやつを与える【やる/あげる】平日限定「おやつタイム」は猫と仲良しになれる絶好のチャンス
(岩尾光代他『サンデー毎日』)

上の(6a)(6b)の「与える」の意味は、＜主体が、受け手に実体のあるモノを渡し、受け手のものとする＞(以下「**与える：意味①**」)と定義することができる。

- (7) a. 両社とも日曜日に出勤した従業員に対して、その週の他の日に休みを与え【やり／あげ】ました。(河野順一『給与計算をするならこの1冊』)
b. 魅力ある生活環境をつくるためには、供給者の側の競争を激しくすることによって、消費者の側を選ぶ自由を与える【やる／あげる】ことが重要だ。(堺屋太一『「次」はこうなる』)

「与える」は、「やる、あげる」と同じく、上の(7a)(7b)のように、与え手が受け手に渡し対象が＜実体のないモノ＞である場合にも用いられる。この場合の「与える」の意味は、＜主体が、受け手に実体のないモノを提供し、受け手のものとする＞(以下「**与える：意味②-1**」)と定義できる。

- (7) a. そのうち、一部の本はユダヤ人に関する高度な知識や情報を与え【?やり/?あげ】、啓発する本ですが、ほとんどの本はユダヤ民族をステレオタイプ化し、無知な批判をするものです。(中見利男他『面白いほどよくわかるユダヤ世界のすべて』)

「与える」には、上の(7a)のように＜情報(実体のないモノ)＞を対象にとるものの、与え手が＜モノ・コト＞である用例もあり、この場合は「やる、あげる」に置き換えることができない(「**使い分けの基準②**」)。この「与える」の意味は、＜モノ・コトが、受け手に実体のないモノを提供し、それが受け手のものになる＞(以下「**与える：意味②-2**」)と定義できる。

- (8) a. 発掘を助成し便宜を与え【?やり/?あげ】協力した公共団体や個人、出版物や博物館などで成果を紹介し、原人グッズなどを作って村おこしを企画したひとびと、その他捏造の被害を受けた人は数知れない。(真島節朗『海と周辺国に向き合う日本人の歴史』)
b. それを行政に科学の見地からどういうふうに反映していくかという示唆を与える【?やる/?あげる】ということを科学技術庁はやっていかなければいかぬだろうと思います。(『国会議事録』)

上の(8a)(8b)の「与える」の意味は、＜主体が、受け手に対して行為を行い、その効果を受け手のものとする＞(以下「**与える：意味③**」)と定義することができる。このように、対象が＜モノ＞でなく＜コト＞である場合は、「やる、あげる」に置き換えられない(「**使い分けの基準③**」)。

- (9) a. 患者に不安を与える【?やる/?あげる】伝え方をする病院は、患者本位の所ではないと思ったからです。(Yahoo!知恵袋)
b. 保持さんは別として、他の発起人の人たちには、わたくし一人が妙に力んでいるような、あるいは独走しているような印象を与えて【?やって/?あげて】いたのではなかったでしょうか。(平塚らいてう『原始、女性は太陽であった』)

上の(9a)(9b)の「与える」の意味は、＜与え手が、受け手に作用を及ぼし、その結果が受け手のものとなる＞(以下「**与える：意味④**」)と定義することができるが、この場合も「やる、あげる」に置き換えることができない(「**使い分けの基準③**」)。

- (10) a. カーブもスライダーも回転を与えて【?やって/?あげて】変化させる球。(Yahoo!知恵袋)
b. 即物的なデジタル時代にこそ、自分に深みを与える【?やる/?あげる】感性を磨く。(『Hanako』2004年9月15日号)

上の(10a)(10b)の「与える」の意味は、＜与え手が、受け手に変化を加え、変化した状態を受け手のものとする＞(以下「**与える：意味⑤**」)と定義できるが、この場合も「やる、あげる」に置き換えられない(「**使い分けの基準③**」)。

- (11)a. 小学校三年生の児童にインスタントカメラを渡して、自分の一番好きな場所やものを写すという宿題を与え【?やり/?あげ】ました。 (『産経新聞』2004年8月27日全国紙朝刊)
- b. 今度のようなきわめて困難な任務を与え【?やり/?あげ】、死地におもむかせるのは、いたい何事だと、麟太郎は憤懣やるかたない思いである。 (津本陽『潮』)

上の(11a)(11b)の「与える」の意味は、〈与え手が、受け手にすべきコトを提示し、受け手のものとする〉(以下「**与える：意味⑥**」)と定義できるが、この場合も「やる、あげる」に置き換えることができない(**使い分けの基準③**)。

6. まとめ

以上、授受動詞「やる」「あげる」と「与える」を、それぞれ中心的意味から周辺の意味へと考察しつつ、3語の間の置き換え可否および使い分けの基準を検討してきた。本研究の目的である、授受動詞「やる」「あげる」と「与える」の意味上の使い分けという観点から要点を整理すると、以下のようになる。

表1 「やる、あげる、与える」の意味の対応関係

	やる	あげる	与える
中心 的 意 味 ↑ ↓ 周 辺 的 意 味	意味① 対象：実体のあるモノ 【モノ】	意味① 対象：実体のあるモノ 【モノ】	意味① 対象：実体のあるモノ 【モノ】
	意味② 対象：人	-	-
	意味③ 対象：実体のないモノ 【モノ】 与え手：主体	意味② 対象：実体のないモノ 【モノ】 与え手：主体	意味②-1 対象：実体のないモノ 【モノ】 与え手：主体
	-	-	意味②-2 対象：実体のないモノ 【モノ】 与え手：モノ・コト
	-	-	意味③ 対象：受け手に行う行為 【コト】
周 辺 的 意 味	-	-	意味④ 対象：受け手に及ぼす作用 【コト】
	-	-	意味⑤ 対象：受け手に加える変化 【コト】
	-	-	意味⑥ 対象：受け手がすべきコト 【コト】

- 1) 対象が〈モノ〉で与え手が〈主体〉である場合、「やる、あげる、与える」のいずれも用いられる(「やる：意味①③」「あげる：意味①②」「与える：意味①②-1」)。
- 2) 対象が〈人〉の場合、「やる」が用いられる(「やる：意味②」)。(本稿3.「使い分けの基準①」を参照。)
- 3) 与え手が〈モノ・コト〉の場合、「与える」が用いられる(「与える：意味②-2」)。(本稿5.「使い分けの基準②」を参照。)
- 4) 対象が〈コト〉である場合、「与える」が用いられる(「与える：意味③～⑥」)。(本稿5.「使い分けの基準③」を参照。)

※参考文献および参考資料は、発表の際に申し上げます。